



2019年 名古屋>>蒲郡  
尾崎 耕平さん

### 好きなことにまっすぐ 向き合える毎日が楽しい

茨城県出身の尾崎さんは、大学進学や就職を機に各地で暮らし、名古屋で農業関連の仕事に携わってきました。米農家向けの肥料営業として働く中で、後継者不足や耕作放棄地の問題に直面し、「自分で農業をやってみたい」という思いが強くなっていったそうです。

蒲郡を選んだきっかけは、妻の出身地であったこと。また、相談を重ねる中で、温暖な気候や日照時間の長さから、「ここで農業ができればおいしいものができるだろうな」と思い、移住を決めました。「海に近い風景は、地元の茨城とよく似ていて、どこか安心感がありました」と話します。

実際に暮らしてみると、治安がよく、落ち着いた環境でリラックスして過ごせることも魅力に感じているそうです。現在はイチゴ農家として日々畑に向き合い、「イチゴ漬けの毎日が楽しい」と笑顔を見せます。

蒲郡に住んで驚いたことは、人との距離の近さ。イチゴづくりでうまくいかなかったときには、「失敗してもいいから、どんどん挑戦した方がいい」と声をかけられ、いつも周りの人が気にかけてくれていると言います。「茨城にいた頃は、近所に誰が住んでいるかも知らなかった。でもここでは顔が見える関係があつて、自然とつながりができる」と話す尾崎さん。

「ずっと住んでいる妻は、蒲郡には何もないと言つんです。でも、何もない。それがいいところでもあると思います」と笑います。



### 家族の時間を ゆったりと過ごせる

広島出身の川曲さんも大学進学や就職を機に各地で暮らし、そして夫の転勤でアメリカへ。帰国したのはコロナ禍の真つただ中で、そのような状況でも自然の中で子どもがのびのび生活できる場所を探していました。そんな中、ドライブで訪れたのが蒲郡でした。「アメリカでの生活のように家族の時間を十分に持つことができそう」と感じ、海と山に囲まれ、日常の中に小さな癒しがある蒲郡を選びました。現在は家族との時間を大切にしながら、シフォンケーキとハンドメイド作品のお店「Petit Joie」を営んでいます。



2022年 アメリカ>>蒲郡  
川曲 寛子さん

暮らしの中で、近所の人が野菜を分けてくれたり、子どもと遊んでくれたりすることもあるそうです。「人が優しく、これまで出会った方はみんないい人ばかり」と言います。また、子どもが通う小学校では、塩田づくりなど地域の特色を生かした体験学習もあり、「こういう経験ができるのはいいな」と思っているそうです。

お気に入りの場所は、春日浦や西浦の海。子どもと海で遊んだり、海辺をドライブしたりと、日常の中で自然に触れる時間を大切にしています。また、海の見えるカフェでパソコンを開いて仕事をするのも。カフェで足湯に入りながらのんびり過ごす時間も好きなんだそう。

「蒲郡の派手ではないけれど、暮らしやすくて、ちょっとした非日常を感じられるところが私には気に入っています」と話します。

